

# 美術教科実践レポート

全学年美術

「対話する授業への取り組み」

授業者 岸本 和幸

《研究実践のポイント》

対話や議論することを通して、自他の考えを比較検討し、考えを深めたり広げたりすることで授業のねらいに迫る

## 1. これまでの流れ

「対話する授業への取り組み」は今年度で3年目となる。今までの経過をまとめてみると、

### 1年目

アイデアを練るときに「対話」を設定する。対話の材料として思考ツールを利用する。

**成果：**意見の交換がよくできた。発想の広がりなどの効果が見られた。「発想が良い」など、肯定されることで自信につながった生徒もいた。

**課題：**回数を増やすこと。

### 2年目

「対話」する時間としてアドバイスタイムを設定。複数回の対話を目指す。ワークシートで生徒の考えや作品の変化を確認する。

**成果：**話し合いに慣れて、活発になった。作品に対して「人からどう見えるか」という客観的な見方ができた。

**課題：**ワークシートに記入する時間がかかった。

## 2. アドバイスタイムを有効に活用する

今年度は時間短縮のため、毎時間のワークシートでなく、スケッチブックへの記入や単元の振り返りシートで検証することに取り組んだ。シートにはアドバイスタイムをさらに有効に使うために、何について話をしたのかを記入させ調べてみた。

## 単元の振り返りシート

1	年	2	進	名前
単元名		平均ポスター		
単元ゴール		「わたしたちがみんなつながっている」の大テーマに応じて、自分が伝えたいことを効果的に伝えるために、アイデアを練ることができる。 ・友達の見解を参考にしてアイデアを練ることができる。 ・論議り、建設的のやり方を理解し、効果的に作品に使用することができる。		

1. この単元で自分ができるようになったこと、おかったことは何ですか。

「色について」活発なことができた。色を決めるのが面白かった。  
自分の意見も述べることができた。

2. 友達のアドバイスを聞いて変更したことや工夫したことは何ですか。

「色」について、友達からアドバイスをもらって変更した。色を決めるのが面白かった。  
自分の意見も述べることができた。

3. ポスターの振り返りシートから

ポスターの振り返りシートから
今回の単元ゴール
①この単元でできるようになったこと
②友達のアドバイスを聞いて変更したことや工夫したこと
③200文字の振り返り

《内容》

今回の単元ゴール

- ①この単元でできるようになったこと
- ②友達のアドバイスを聞いて変更したことや工夫したこと
- ③200文字の振り返り

## 3. ポスターの振り返りシートから

単元の振り返りの中で【対話する授業】に大きくかわる質問の「友達のアドバイスを聞いて変更したことや工夫したこと」への回答を分析してみた。果たして生徒たちはアドバイスタイムでどんなことを「役に立つ情報」としているのか。それを知ることによってこれからのアドバイスタイムをさらに工夫できるのではないかと考えた。

生徒の回答した内容を「アイデアについて」「色の決定・変更」「技法・塗り方」「コピーについて」「よいと言われて自信になった」「形の取り方」「画面構成」「特になし」の8つに分類した。

結果は次の通りであった。(複数回答あり)

分類項目	人数	%
アイデアについて	1 1	6.2%
色の決定・変更	6 1	34.5%
技法・塗り方	4 3	24.3%
コピーについて	4	2.3%
良いと言われ自信に	1 4	7.9%
形の取り方	7	4.0%
画面構成	3 3	18.6%
特になし	4	2.3%

話し合った内容で多かったものを挙げる。

#### 【色の決定・変更】

- ・背景で悩んでいて、アドバイスで決定した。
- ・枠の中にある青空を目立たないと言われて、雲を加えて、濃い空の部分と違えることで印象に残るように工夫した。



#### 【技法・塗り方】

- ・線と線の境目がわかりづらかったので、濃い色で線を塗るようにした。
- ・グラデーションを使うことを勧められた。



#### 【画面構成】

- ・地球の雲を少し増やして、地球を目立たせた。
- ・国旗の角度を斜めにした。

#### 4. 今後の課題

生徒がアドバイスタイムで話したいことの傾向をつかむことができたので、これをさらに有効に活用する。アドバイスタイムで話す内容(テーマ)を提示してみることを試してみたい。

「最も目立たせたい部分は何色?」(色の決定)、「すっきりとまとめる」(画面構成)、どんな技法を使えばいいかな」(技法)など、製作段階やめあて、生徒が話したい内容から考えると、アドバイスタイムの話し合うことが明確になるはずだ。